

① 日本国特許庁 (JP)

② 特許出願公開

③ 公開特許公報 (A)

昭57—46846

④ Int. Cl.³

B 29 C 27/06

B 32 B 31/20

識別記号

庁内整理番号

7722—4F

6122—4F

⑤ 公開 昭和57年(1982)3月17日

発明の数 1

審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑥ 被包用防水マットの製法

小牧市大字岩崎900番地の3

⑦ 特 願 昭55—18353

⑧ 出 願 昭55(1980)2月16日

⑨ 発 明 者 和田孝雄

⑩ 出 願 人 和田孝雄

小牧市大字岩崎900番地の3

⑪ 代 理 人 弁理士 松波祥文

明 細 書

1. 発明の名称

被包用防水マットの製法

2. 特許請求の範囲

ラミネートマシンのローラーと熱圧着ローラーからなる引取部に於いて、熱圧着ローラー方向から吸水性生地体を流入させ、中央部からポリエチレンフィルムを流入させた後、他方のローラー方向から流入させるポリスチレンペーパー等防水性生地体とを前記熱圧着ローラーから与熱を利用して中央部のポリエチレンフィルムを溶解し重合熱圧着せしめることを特徴とする被包用防水マット

包せんとする場合、布又は紙製の被包材料の場合には包装せんとする物体から例えば鮭の場合には60～70cc程度の濃塩水が排出される様に被包部から液が漏み出てしまって運搬用外箱や鞆の内部を汚すこと屢々であり、斯様な漏出現象を知らずにいると思いがけず洋服等被服を汚すことにもなる。さりとて商店の店頭では消費者に前述の如き商品を引き渡す場合に完璧な防水対策を施す包装は包装コストとその手間から実際取引上至難である。現在広く利用されているものは吸水性の無いポリスチレンペーパー製成形の舟形乃至皿状被包用容器であるが、材質上吸水性が無いことから該容器体をサランラップ等で幾重に被包しても所

である。その目的とするところは筋子、タラシ、鮮果、鮮魚等を常温で加工可能な物の如き物体を被

包せんとする場合、布又は紙製の被包材料の場合には包装せんとする物体から例えば鮭の場合には60～70cc程度の濃塩水が排出される様に被包部から液が漏み出てしま

この構成として容器体をプレス成形後、後工程として吸水紙をわざわざ貼着せねばならない為に製造工程が増え、人件費もかさみかなりのコスト高を招来してしまふことになる。本発明では前記の如く表面に吸水機能を有する防水マットが無いことから、従来公知のポリスチレンペーパー等の防水性生地体を基材として、これに吸水紙を表面に一体化せしめた構成とし、容器内部で吸水機能を持たしめ、外部へ防水機能を発揮する相反する機能を併有する被包用防水マットを一体成形する製法を提供せんとするものである。

本考案の実施態様を添付図面に従って説明するに、(1)は被包用防水マットであって、その構造はポリスチレンペーパー等防水性生地体(2)と吸水性生地体(3)を一体的に熱圧着加工せしめたものであり、その製法を説明すると、第1図の様に、ラミネートマシン(図示せず)に於ける引取部(5)はロール(6)と弾接力を調整自在と成す熱圧着ローラー

(7)とから構成されており、両ローラー(6)(7)の接合部に熱圧着ローラー(7)方向から吸水性生地体(3)を流入させ、ロール(6)方向から流入させるポリエチレンペーパー(2)とを重合せしめて両ローラー(6)(7)間を通過せしめることにより、第2図の如き防水性生地体(2)の上面に吸水性生地体(3)が乗り熱圧着ローラー(7)からの与熱によりサンドイッチ状に挟み込まれたポリエチレンフィルムが溶解して一体貼着される。

本発明は上記の如く、ローラー(6)と熱圧着ローラー(7)とからなる引取部(5)に対し、熱圧着ローラー(7)上方から吸水性生地体(3)を流入せしめ、他方のローラー(6)側を熱に弱い性質を有するポリスチレンペーパー(2)を通過せしめるべく配置して両ローラー(6)(7)間で重合するに際し、第1図の如く熱に強い吸水性生地体(2)側から熱圧着して重合接合せしめている為、熱に弱いポリスチレンペーパーに直接与熱していないことにより、ポリエチレン

フィルム(4)の溶解温度以下で与熱される為にポリスチレンペーパー(2)を損傷しないで、表面に吸水機能を外面に防水機能を発揮する本来相反する特性を一枚の防水マット(1)が一体成形可能となる。従って乗載せしめた食用水産物や加工水産物等被包装材料からの滲出液は表面の吸水性生地体(3)が吸収且つ保水状態を維持してくれると同時に全表面にサラシラップ等従来公知の防水能力を持ち貼着包装可能なラップで被装すれば外側では防水効果を発揮することになって被包作業が極めて簡便となり生産に適するので市場に廉価に提供することが出来る等優れた発明である。

4 図面の簡単な説明

は防水マットの縦断断面図である

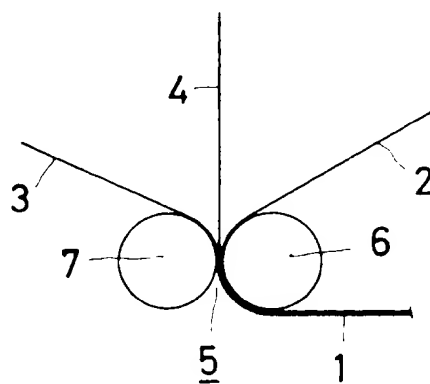
(1) 防水マット (2) 防水性生地体

(5) 引 取 部 (6) ロ ー ラ ー
(7) 熱圧着ローラー

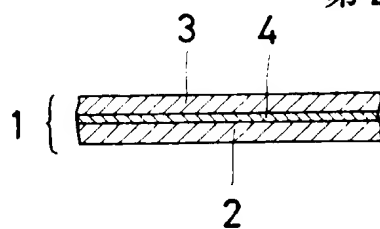
出願人 和 出 孝 雄

代理人 弁理士 松 波 祥 文

第1図



第2図



PRODUCTION OF WATER-PROOF WRAPPING MAT

Patent Number: JP57046846
Publication date: 1982-03-17
Inventor(s): WADA TAKAO
Applicant(s):: WADA TAKAO
Requested Patent: ☐ JP57046846
Application Number: JP19800018353 19800216
Priority Number(s):
IPC Classification: B29C27/06
EC Classification:
Equivalents:

Abstract

PURPOSE:To form the titled mat in an integral body having a water-absorbing property inside a vessel and a water-proof property outside the vessel, by putting and hot pressing the surface of a water-absorbing cloth sheet through a polyethylene layer onto a water-proof cloth sheet, e.g. polystyrene.

CONSTITUTION:A water-absorbing cloth sheet 3, e.g. water-absorbing paper, is introduced along the direction of a hot-press roller 7 at the receiving part of a laminate machine, while a polyethylene film 4 is introduced from the center. A water-proof cloth sheet 2, e.g. a polystyrene sheet, is then introduced along the direction of a roll 6. The polyethylene film 2 at the center is melted by a heat supplied from the hot-press roller 7 and laminated and hot-pressed onto the sheet, 3, 4 to obtain a water-proof wrapping mat 1.

EFFECT:The wrapping mat, which enables very easy wrapping work, suitable for massproduction can be offered at a low cost.

USE:For wrapping edible and processed marine products.

Data supplied from the esp@cenet database - I2